

2024年4月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年3月8日

上場会社名 HEROZ株式会社 上場取引所 東
コード番号 4382 URL https://www.heroz.co.jp
代表者 (役職名) 代表取締役CEO (氏名) 林 隆弘
問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 森 博也 TEL 03(6435)2495
四半期報告書提出予定日 2024年3月11日 配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無: 有
四半期決算説明会開催の有無: 有 (機関投資家、アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年4月期第3四半期の連結業績 (2023年5月1日~2024年1月31日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA※		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年4月期第3四半期	3,631	93.2	730	107.0	402	105.6	343	112.7	△921	-
2023年4月期第3四半期	1,879	-	352	-	195	-	161	-	△518	-

(注) 包括利益 2024年4月期第3四半期 △745百万円 (-%) 2023年4月期第3四半期 △449百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年4月期第3四半期	△61.32	-
2023年4月期第3四半期	△34.53	-

※EBITDA (営業利益+減価償却費+敷金償却+のれん償却額 (特別損失分を除く) +株式報酬費用+棚卸資産評価損)

(注) 1. 2023年4月期第2四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、2023年4月期第3四半期の対前年同四半期増減率については、記載しておりません。また、2023年4月期第2四半期は、子会社の貸借対照表のみを連結し、損益計算書は2023年4月期第3四半期決算より連結しております。

2. 2023年4月期第3四半期並びに2024年4月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年4月期第3四半期	7,634	5,316	64.8
2023年4月期	8,673	6,080	67.4

(参考) 自己資本 2024年4月期第3四半期 4,945百万円 2023年4月期 5,845百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年4月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2024年4月期	-	0.00	-	-	-
2024年4月期 (予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2024年4月期の連結業績予想 (2023年5月1日~2024年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,850	62.7	450	74.5	410	89.7	△930	-	△61.85

(参考) EBITDA (営業利益+減価償却費+敷金償却+のれん償却額 (特別損失分を除く) +株式報酬費用+棚卸資産評価損) 2024年4月期 (通期) 920百万円

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 有
業績予想に関する詳細は、本日開示いたしました「2024年4月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
新規 1社 （社名）株式会社エーアイスクエア、除外 1社 （社名）－
（注）詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動）」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年4月期3Q	15,045,737株	2023年4月期	15,027,181株
② 期末自己株式数	2024年4月期3Q	45株	2023年4月期	1株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年4月期3Q	15,034,156株	2023年4月期3Q	15,026,471株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

（四半期決算補足説明資料の入手方法）

四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示しています。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	7
(セグメント情報等)	7
(重要な後発事象)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

前第2四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しており、子会社の損益計算書は前第3四半期連結会計期間より連結しております。

（1）経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済状況は、所得・雇用環境が改善される中、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が期待されているものの、世界的な金融引締めに伴う影響や物価上昇等による景気の下振れリスクが懸念されています。

その一方で、情報サービス業界においては、従来なかったスピード感での技術革新や、少子高齢化・生産年齢人口の減少等を受け、デジタル技術を活用したDX（デジタルトランスフォーメーション）に関する投資が引き続き拡大を続けています。特に、AI市場においては、OpenAI社による「ChatGPT-3.5」「ChatGPT-4.0」のリリースに端を発した、各産業におけるAIトランスフォーメーション（以下、「AIX」という。）に関する投資の加速が続いており、まさに現在進行形で、LLM（Large Language Model：大規模言語モデル）を含むAIの技術競争・需要拡大・社会実装が急激なスピードで進んでおります。なお、当社グループでは、AIXとは、AIを社会に浸透させることにより、その力を通じて既存の業務プロセスやビジネスモデル等を含めて社会全体に抜本的な変革を起こすこと、ととらえております。

また、SaaS市場においても、導入の需要のみならず、「ニーズの多様化に伴うSaaS間連携」「統合管理の複雑化によるセキュリティ要件の高度化」等に関する需要拡大が見込まれるほか、セキュリティ市場においても、サプライチェーンを狙ったサイバー攻撃や一般企業・病院等を狙うランサムウェア被害（身代金要求型ウイルス）が増加しており、また企業によるクラウドサービスの利用やDX化の推進等もあって、セキュリティ対策は必然となっております。

このような環境の中で、当社グループは、「AI革命を起こし、未来を創っていく」というビジョンのもと、「AI×SaaS」戦略を掲げ、AI・SaaS・セキュリティ関連技術を用いたソリューション提供やLLMを含むAIの社会実装等に努めたほか、「LLM関連の研究開発強化」「グループシナジーの強化」等も進めてまいりました。今後も、AI関連技術の利活用によるソリューション提供を通じた各企業・業界のAIX推進のみならず、LLMを含むAI・SaaS・セキュリティ関連分野において積極的に研究開発を進め、よりスピード感をもってグループ全体の事業拡大を目指してまいります。

また、2023年11月に、コンタクトセンター領域において各種ソリューションを提供している株式会社エーアイスクエアの株式を取得し、子会社化を行いました。コンタクトセンターの運営業務と、AIによる業務の自動化・学習は非常に親和性が高く、業務精度の向上や作業の効率化、人件費等のコストの大幅な削減等が見込まれることから、当領域での高度なAIソリューションに対する期待感・需要も高まっております。株式取得後、各種分野で連携・PMI活動を進めており、両社の強みを活かしたシナジー創出を通じ、コンタクトセンター領域・業界におけるAIXを目指してまいります。

なお、セグメント別の経営成績の概況は以下の通りです。

（AI/DX事業）

AI/DX事業は、当社グループに蓄積されたAI・SaaS関連技術・ノウハウ・データ等を活用し、AI関連ソリューションの提供やSaaS導入支援・SaaS間連携開発、コンタクトセンター領域における各種ソリューション等を提供することにより各企業・業界のAI/DX化推進を目指すセグメントとなります。また2023年11月に子会社化した株式会社エーアイスクエアの事業はAI/DX事業となります。

当第3四半期連結累計期間において、当社グループのAI/DX事業については、BtoC領域における将棋への注目度向上や新サービスのリリース、BtoB領域における案件数・引き合いの増加や大型案件の獲得もあり、収益が拡大しております。

BtoC領域については、藤井聡太竜王・名人による史上初の八冠獲得に伴う将棋への注目度向上等の効果により、「将棋ウォーズ」「棋神アナリティクス」ともに安定した収益を上げました。2023年10月には、将棋初段昇段を目指すeラーニングサービス「棋神ラーニング」をリリースし、11月には日本将棋連盟より将棋の普及振興への貢献を表彰頂きました。また、BtoB領域についても、LLMを含むAIに関する投資拡大・注目度向上を受け案件数・引き合いの増加や大型案件の獲得等もあり、収益が拡大しております。同領域においては、2023年12月の建設DX展への出展等を受け、生成AI関連の引き合いも増加しているほか、2024年2月には株式会社ポケモンと共同で、「ポケモン竜王戦2024」のゲーム部門配信画面に初導入されるポケモンバトルに特化したAIを開発し、また2024年2月にはストラテジット社でSaaS連携プラットフォーム「JOINT」の新プロダクトとして、「JOINT iPaaS for SaaS」をリリースするなど、事業拡大に向けた活動を積極的に展開しております。

当セグメントにおいて、LLMの活用・社会実装は事業戦略の中核となるテーマであり、今後も、2023年5月に新

設された専門組織「LLM Group」を中心にスピード感をもって研究開発を進めてまいります。その取り組みとして、2024年2月に生成AIを活用したエンタープライズ向けAI アシスタントSaaS「HEROZ ASK」アーリーアクセス版をリリースしました。2023年9月よりクローズドβ版として無料提供していましたが、多数の機能をアップデートし、アーリーアクセス版として、より進化した形でサービス提供を行っております。

（AI Security事業）

AI Security事業は、グループ会社であるバリオセキュア株式会社が提供するインターネットセキュリティ関連の事業となります。

同社は、そのような環境下、エンドポイントセキュリティ対策としてサイバー攻撃の兆候を検知するVarioマネージドEDRサービスの監視やインシデント調査などの運用面における手厚いサポートが評価され、売上収益が伸長しました。また、昨今の医療機関等を標的としたサイバー攻撃や医療情報システムのクラウド利用の増加などを背景に、2023年5月31日に厚生労働省より、「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン 第6.0版」が発表され、当社のデータバックアップ（VDaP）が医療機関から注目を集め、売上収益が堅調に拡大しました。

また同社は、2024年2月期から2026年2月期にかけて、中期経営方針のもと「マネージドサービスの対応領域拡大・競争力強化」「成長セキュリティ市場への参入」「既存販売網と異なる新規営業体制の強化」を掲げ、人材の獲得、サービス企画・事業開発の強化、ソフトウェア開発等の事業投資を行う計画を公表し、実現に向けての取り組みを行っております。人材基盤を強化することで、新規販路の開拓とサービス開発を推進しています。

費用面に関して、当社にてオフィス体制の見直しを行う等、適切なコストコントロールを進めましたが、一方で、事業・サービス拡大に伴う人材採用強化による人件費等の増加や、取締役・執行役員に関する業績連動報酬の概算計上のほか、広告宣伝強化・追加のM&Aに関連した監査関連報酬の発生・為替の影響によるサーバ利用料の増加等により、売上原価・販売費及び一般管理費は増加しております。そのほか、営業外費用として株主優待関連費用18,974千円、特別損失としてのれんの一部の一括償却891,209千円が発生しております。なお特別損失ののれんの一部の一括償却は、バリオセキュア株式の市場価格の下落に伴うのれんの一部の一括償却であり、バリオセキュアの個別決算で計上しているのれんの再評価を行ったものではありません。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は3,631,974千円（前年同期比：93.2%増）、EBITDA（注）730,649千円（前年同期比：107.0%増）、営業利益402,736千円（前年同期比：105.6%増）、経常利益343,711千円（前年同期比：112.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純損失は921,926千円（前年同期は518,869千円の損失）となりました。

当社グループの当第3四半期連結累計期間におけるセグメント別の損益状況については、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）」をご参照ください。

（注）EBITDA（営業利益＋減価償却費＋敷金償却+のれん償却額（特別損失分を除く）＋株式報酬費用＋棚卸資産評価損）

（2）財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

（資産の部）

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,038,053千円減少し、7,634,995千円となりました。これは主に、のれんの減少758,952千円があったこと等によります。

（負債の部）

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ274,717千円減少し、2,318,001千円となりました。これは主に、長期借入金の減少151,560千円があったこと等によります。

（純資産の部）

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ763,335千円減少し、5,316,993千円となりました。これは主に、利益剰余金の減少921,926千円があったこと等によります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2023年6月9日に公表いたしました連結業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日開示いたしました「2024年4月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

また上記予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,798,391	3,192,288
売掛金及び契約資産	669,332	822,632
棚卸資産	260,283	254,179
その他	235,956	235,222
流動資産合計	4,963,963	4,504,323
固定資産		
有形固定資産	237,318	245,501
無形固定資産		
のれん	2,311,872	1,552,920
ソフトウェア	223,255	173,762
ソフトウェア仮勘定	105,560	334,264
無形固定資産合計	2,640,689	2,060,947
投資その他の資産	831,077	824,223
固定資産合計	3,709,084	3,130,671
資産合計	8,673,048	7,634,995
負債の部		
流動負債		
買掛金	101,223	113,333
1年内返済予定の長期借入金	200,780	200,000
未払法人税等	154,035	63,054
賞与引当金	29,729	40,737
契約損失引当金	101,395	91,235
株主優待引当金	—	7,492
その他	407,408	444,819
流動負債合計	994,571	960,671
固定負債		
長期借入金	1,301,560	1,150,000
繰延税金負債	477	—
その他	296,110	207,329
固定負債合計	1,598,147	1,357,329
負債合計	2,592,719	2,318,001
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,128	21,784
資本剰余金	5,303,446	5,308,257
利益剰余金	516,421	△405,504
自己株式	—	△101
株主資本合計	5,829,996	4,924,435
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	15,057	20,571
その他の包括利益累計額合計	15,057	20,571
新株予約権	29,781	52,770
非支配株主持分	205,493	319,215
純資産合計	6,080,329	5,316,993
負債純資産合計	8,673,048	7,634,995

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2023年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年5月1日 至 2024年1月31日)
売上高	1,879,849	3,631,974
売上原価	1,007,178	1,797,462
売上総利益	872,670	1,834,512
販売費及び一般管理費	676,772	1,431,775
営業利益	195,898	402,736
営業外収益		
受取利息	18	18
持分法による投資利益	14,594	—
固定資産売却益	—	158
還付加算金	287	11
その他	100	1,256
営業外収益合計	15,001	1,444
営業外費用		
支払利息	2,879	7,927
株式交付費	21,013	—
投資有価証券運用損	22,401	13,684
株主優待関連費用	—	18,974
貸倒引当金繰入額	—	7,000
その他	2,999	12,883
営業外費用合計	49,293	60,470
経常利益	161,606	343,711
特別損失		
段階取得に係る差損	541,091	—
のれん償却額	—	891,209
特別損失合計	541,091	891,209
税金等調整前四半期純損失(△)	△379,485	△547,497
法人税、住民税及び事業税	94,414	195,053
法人税等調整額	△11,595	8,313
法人税等合計	82,819	203,366
四半期純損失(△)	△462,304	△750,864
非支配株主に帰属する四半期純利益	56,565	171,061
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△518,869	△921,926

（四半期連結包括利益計算書）
（第3四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2022年5月1日 至 2023年1月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2023年5月1日 至 2024年1月31日）
四半期純損失（△）	△462,304	△750,864
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	13,253	5,514
その他の包括利益合計	13,253	5,514
四半期包括利益	△449,051	△745,350
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△505,616	△916,411
非支配株主に係る四半期包括利益	56,565	171,061

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

当第3四半期連結会計期間より、株式会社エーアイスクエアの株式を取得し子会社化したため、同社を連結の範囲に含めております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自 2022年5月1日 至 2023年1月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	合計
	AI/DX事業	AI Security事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,232,501	647,347	1,879,849	—	1,879,849
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	240	240	△240	—
計	1,232,501	647,587	1,880,089	△240	1,879,849
セグメント利益	370,358	221,642	592,001	△396,103	195,898

(注) 1. セグメント利益の調整額△396,103千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間（自 2023年5月1日 至 2024年1月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	合計
	AI/DX事業	AI Security事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,658,143	1,973,831	3,631,974	—	3,631,974
セグメント間の内部 売上高又は振替高	10,232	687	10,920	△10,920	—
計	1,668,376	1,974,518	3,642,894	△10,920	3,631,974
セグメント利益	526,444	634,594	1,161,038	△758,301	402,736

(注) 1. セグメント利益の調整額△758,301千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

バリオセキュア株式会社の株式の市場価格の下落により、個別決算にて当該株式の減損処理を行い、それに伴い連結決算において、のれんの一部の一括償却を行っております。なお、当該事象によるのれんの償却額891,209千円は、当第3四半期連結累計期間に特別損失として計上しており、セグメント利益には含まれておりません。

なお、上記ののれん償却は株価の下落に伴う連結決算上の処理であり、バリオセキュア株式会社が個別決算で計上しているのれんの償却を行うことを意味しているものではありません。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。